

体育〔保健領域〕－3（第5学年）

犯罪被害によるけがの防止について、グループの話し合いやブレインストーミングを行い、思考を促す事例

【学習活動の概要】

<p>1 単元名 けがの防止～犯罪被害によるけがの防止～</p>																		
<p>2 単元の目標（指導のねらい） けがの防止について理解できるようにし、身近な生活において健康で安全な生活を営む資質や能力を育てる。</p>																		
<p>3 評価規準 【健康・安全への関心・意欲・態度】けがの防止について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 【健康・安全についての思考・判断】けがの防止について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、実践的に考え、判断し、それらを表している。 【健康・安全についての知識・理解】交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止、けがの手当について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。</p>																		
<p>4 教材 本単元では、けがの防止には、周囲の危険に気付くこと、的確な判断の下に安全に行動すること、環境を安全に整えることが必要であることが理解できるようにすることが大切である。そのためには、交通事故、水の事故、学校生活の事故、犯罪被害などを取り上げる。また、けがの簡単な手当についても学習する。こうした個人の行動だけでなく安全な環境にもかかわる内容については、とりわけ話し合いなどの言語活動を通して、様々な意見を踏まえ理解を深めることができるような教材が求められる。具体的には、安全な生活に関する課題がわかるグラフや表、身近な生活において危険が予測できるイラストや学区内の写真、事故の事例などが考えられる。</p>																		
<p>5 主な学習活動 （単元の指導計画）（全5時間）</p>																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="183 1171 311 1238"></th> <th data-bbox="311 1171 901 1238">学 習 活 動</th> <th data-bbox="901 1171 1404 1238">言語活動に関する指導上の留意点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="183 1238 311 1451">第1時</td> <td data-bbox="311 1238 901 1451">○事故や犯罪などによるけがは、人の行動や環境がかかわって発生することを理解するとともに、けがの防止について関心を高める。</td> <td data-bbox="901 1238 1404 1451">言語活動を充実させるため、以下のような場を設定する。 ・事故や犯罪などによるけがの発生要因についてブレインストーミングし、出された意見をグループや学級全体で仲間わけする。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="183 1451 311 1552">第2時</td> <td data-bbox="311 1451 901 1552">○学校生活の事故によるけがの防止について課題を見付け、解決方法を考える。</td> <td data-bbox="901 1451 1404 1552">・学校生活の事故がどこで起こっているかを調べ、その原因について話し合い、課題やその解決方法を見付ける。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="183 1552 311 1686">第3時 （本時）</td> <td data-bbox="311 1552 901 1686">○犯罪被害によるけがの防止について、学校生活で学習したことを生かして考える。</td> <td data-bbox="901 1552 1404 1686">・犯罪被害によるけがの防止について調べたことを自分の生活と比較したり、関係を見付けたりして、それらを説明する。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="183 1686 311 1798">第4時</td> <td data-bbox="311 1686 901 1798">○交通事故によるけがの防止について理解するとともに、これまで学習したけがの防止と比較する。</td> <td data-bbox="901 1686 1404 1798">・交通事故によるけがの防止について事例を基に考えたり、既習の内容と比較し、共通点や違いについて考える。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="183 1798 311 1888">第5時</td> <td data-bbox="311 1798 901 1888">○簡単なけがの手当について実習を通して理解する。</td> <td data-bbox="901 1798 1404 1888">・けがの手当の実習を通して、けがの手当の原則についてまとめる。</td> </tr> </tbody> </table>		学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点	第1時	○事故や犯罪などによるけがは、人の行動や環境がかかわって発生することを理解するとともに、けがの防止について関心を高める。	言語活動を充実させるため、以下のような場を設定する。 ・事故や犯罪などによるけがの発生要因についてブレインストーミングし、出された意見をグループや学級全体で仲間わけする。	第2時	○学校生活の事故によるけがの防止について課題を見付け、解決方法を考える。	・学校生活の事故がどこで起こっているかを調べ、その原因について話し合い、課題やその解決方法を見付ける。	第3時 （本時）	○犯罪被害によるけがの防止について、学校生活で学習したことを生かして考える。	・犯罪被害によるけがの防止について調べたことを自分の生活と比較したり、関係を見付けたりして、それらを説明する。	第4時	○交通事故によるけがの防止について理解するとともに、これまで学習したけがの防止と比較する。	・交通事故によるけがの防止について事例を基に考えたり、既習の内容と比較し、共通点や違いについて考える。	第5時	○簡単なけがの手当について実習を通して理解する。	・けがの手当の実習を通して、けがの手当の原則についてまとめる。
	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点																
第1時	○事故や犯罪などによるけがは、人の行動や環境がかかわって発生することを理解するとともに、けがの防止について関心を高める。	言語活動を充実させるため、以下のような場を設定する。 ・事故や犯罪などによるけがの発生要因についてブレインストーミングし、出された意見をグループや学級全体で仲間わけする。																
第2時	○学校生活の事故によるけがの防止について課題を見付け、解決方法を考える。	・学校生活の事故がどこで起こっているかを調べ、その原因について話し合い、課題やその解決方法を見付ける。																
第3時 （本時）	○犯罪被害によるけがの防止について、学校生活で学習したことを生かして考える。	・犯罪被害によるけがの防止について調べたことを自分の生活と比較したり、関係を見付けたりして、それらを説明する。																
第4時	○交通事故によるけがの防止について理解するとともに、これまで学習したけがの防止と比較する。	・交通事故によるけがの防止について事例を基に考えたり、既習の内容と比較し、共通点や違いについて考える。																
第5時	○簡単なけがの手当について実習を通して理解する。	・けがの手当の実習を通して、けがの手当の原則についてまとめる。																
<p>（本時の学習） （1）目標 犯罪被害によるけがの防止について、学習したことを自分の生活と比べたり、関係を見付けたりするなどして、それらを説明することができるようにする。 （2）本時の展開</p>																		

- 学校生活におけるけがの防止（前時）の学習内容について確認する。
- 犯罪被害の起こりやすい場所について考える。
- 犯罪被害によるけがを防止するにはどうしたらよいかを話し合う。
- 話し合ったことを発表する。
- 犯罪被害によるけがの防止についてまとめる。

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

小学校学習指導要領 第2章 第9節 体育 第2〔第5学年及び第6学年〕G保健の(2)に、「けがの防止には、周囲の危険に気付くこと、的確な判断の下に安全に行動すること、環境を安全に整えることが必要であること。」、第3の2の(6)に、「保健の指導に当たっては、知識を活用する学習活動を取り入れるなどの指導方法の工夫を行うこと」と示している。ここでは、犯罪被害によるけがの防止についての知識を習得するとともに、習得した知識を活用する学習活動を積極的に行うことにより、安全についての思考力・判断力等を育成することが大切である。

解説では、犯罪被害の防止については、犯罪の起こりやすい場所を避けること、犯罪に巻き込まれそうになったらすぐに助けを求めることなどを取り上げることが示されている。本事例は、学校生活によるけがの防止について学習した知識を、犯罪被害によるけがの防止に活用したり、犯罪被害の起こりやすい場所の共通点を見付けたりする場面である。この場面で資料を基に自分の生活と比較したり、身近な生活との関係を見付けたりするなどして考えたり、話し合ったりすることが犯罪被害によるけがの防止について理解を深めることにつながった。

【言語活動の充実の工夫】

○「教材の工夫によるポイントを絞った話し合い活動」

本時では、下校中の2枚のイラスト（同じ場所で、一人で帰り、周りに誰もいないイラストと集団で帰り、地域の人々がいるイラスト）を比較して、どちらが危険だと思うかその理由について話し合った。様々な意見の中で特に重要なポイントは何かを話し合った結果、「近所の人」「お店の人」「友達」など自分以外の人がないことが危険と考えた。つまり、犯罪被害の起こりやすい場所は、危険から守ってくれる人がいない場所だと考えた。



○「身近な教材によるグループの話し合い活動の活性化」

このことを踏まえて、地域の身近な公園、駐車場、林、住宅地などで犯罪被害が起こりやすい場所はどこなのか、グループで話し合い活動を行った。その際、グループの中で一番危険と思われる場所と一番安全と思われる場所を選び、その理由について話し合い、カードに記入したことを全体で発表し、共通理解を図るようにした。身近な場所なので、生活経験なども交えて話し合えた。林など、人気の少ないところが多かったため、公園の2枚の写真（昼間人がたくさんいるものと夕方誰もいないもの）を提示した。その教材の提示により、同じ場所でも時間帯によって危険から守ってくれる人がいるときといないときがあることに気付くことができた。

○「ブレインストーミングの活用」

前時の学習では、「学校生活におけるけがは『人の行動』と『環境』がかかわって起こるので、その防止にはこの二つの面で気を付ける」ことを学んだ。本時では、前時で学習したことを犯罪被害によるけがの防止に活用する活動を行った。

犯罪の起こりやすい場所を避けることについては各自で理解できたが、それ以外の防止策についても話し合いによって見付けることにした。その際、ワークシートを工夫し、前時で学習した「人の行動」と「環境」を視点に考えるようにした。それぞれについてグループでブレインストーミングをし、代表的な意見を黒板に掲示し、それをもとに話し合った。特に「環境」については児童から意見を出すのは難しいと思ったが、前時で施設面の安全管理について学習していたので、それらを確認することで防犯灯や子ども見守り隊、子ども110番の家を活用するなどの意見が出た。

